

# 『ロシアの思い出』

## *Souvenir de la Russie*

ブラームスの初期創作と《ロシアの思い出》の真偽問題を考える

■ 講演 西原 稔 (桐朋学園大学教授 JBS顧問)

■ 演奏 ブラームス / ロシアの思い出 Anhang IV No. 6 約 20分

- 第1曲 「ロシアの国歌」 (リヴォフ作)
- 第2曲 「枝」(ティトフの歌曲)
- 第3曲 「夜明けに彼女を起こすな」(ワルラモフの歌曲)
- 第4曲 「ナイチンゲール」(アラビエフの歌曲)
- 第5曲 「途中に大きな村があり」(ホベミア民謡)
- 第6曲 「嘆き」(ホベミア民謡)

P 中井恒仁 (桐朋学園大学准教授 ゲスト)

P 武田美和子 (上野学園大学講師 ゲスト)



中井恒仁



武田美和子



西原稔

# 2011年10月2日(日) 3pm

## 駒場カフェ・アンサンブル 30席

京王井の頭線 駒場東大前・下北沢側出口 下車5分 Tel 03-3467-6296

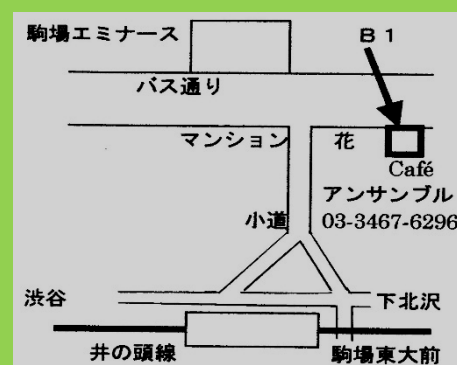
会員 ¥3000 学生 ¥1000 (コーヒー付き)

後援 ハンブルク国際ブラームス協会、米国ブラームス協会

ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~jbs>

お問合せ 日本ブラームス協会 (JBS)

Tel/Fax 03-3990-0611



中井恒仁&武田美和子ピアノデュオ：日本で唯一、世界でも大変稀な、それぞれのソロとデュオ共に「国際音楽コンクール世界連盟 WFIMC」加盟のコンクールで入賞しているピアノデュオ。夫妻で共に東京芸術大学、ミュンヘン音楽大学大学院修了後、ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学にて研鑽を積む。ピアノデュオをA.コンタルスキー氏に師事。1999年にデュオを結成し、同年「マレー・ドラノフ国際2台ピアノコンクール(USA)」入賞後、アメリカでの3日連続リサイタルを皮切りに本格的なデュオ活動をスタートさせ、日本でも全国各地で多くのピアノデュオリサイタルを行っている。日本フィルのシリーズコンサートにも出演。古典から現代音楽にいたるまでそのレパートリーは幅広い。「日本が誇る真のデュオであり英駿の音楽家である」など高い評価を得ている。CD「ブラームス/ハンガリー舞曲集&ワルツ集」、「ラフマニノフ 組曲」、「モーツァルト」をリリース。NHK-BS テレビ「名曲探偵アマデウス」「ぴあのピア」、FM「名曲リサイタル」に出演、音楽誌「ショパン」へ2台ピアノの連載も行った。近年では、フランス・ボルドー音楽祭の出演や、ドイツでの定期コンサートを含むリサイタルツアーを行い、「ナイトの称号を与えるべき音楽芸術」と最高級の言葉で新聞紙上にて絶賛された。

ウェブサイト <http://nakai-takeda.com/>

### 2010年ドイツリサイタルツアー 新聞評

*「しっかりつながれた、新鮮な音楽的対話の、広がり、深み、崇高さ、超越したスケールの大きさに、聴衆は、ただただ仰天し圧倒されるばかりであった。」*

*「このような際立った特徴のはっきりしたキャラクターと音楽性を持つ二人が、お互い非常な理解を持って、堅いチームワークで結ばれ、本当に幸福な演奏を生み出しているということは必然的とも言えるだろう。10年以上も前から、限られた空間での4手による対話、彼らは、深い深い心の調和を、聴衆に示した。」*

*「幅の広い豊かな表現力、叙情的な、そしてピアノを時には優しく繊細な筆でなでるかと思うと、時には力強く神々しく地から響き渡らせる様な力を持ち、聴衆を圧倒させた。」*

中井恒仁：DAADの奨学生としてドイツ留学。日本音楽コンクール第3位、ブラームス国際音楽コンクール第2位・聴衆賞、セニガリア国際ピアノコンクール第1位・室内楽賞・歌曲伴奏賞、ヴィオッティ国際音楽コンクール'97（ヴェルチェリ）第3位、プラハの春国際音楽コンクールディプロマ、マヴィ・マルコツ国際ピアノコンクール最高位。ピアノを渡辺洋子、戸沢盛男・睦子、梅谷進、植田克己、G・オピッツ、KH・ケンマーリンク、歌曲伴奏法をH・ドイチュ、D・ズルツェン各氏に師事。G・ベルティエニ指揮・都響やW・ケンプ生誕100周年記念・ベートーヴェン・ピアノ協奏曲全曲演奏会（伊）出演等、内外のオーケストラとの協演も多い。2004年よりブラームスピアノ全曲（ソロ、連弾、2台ピアノ）シリーズを開催。CD「ブラームス」をリリース。いずれのジャンルでも、誠実で深い音楽に定評がある。桐朋学園大学准教授、同大学院でもソロとデュオの指導に携わっている。また、全国各地での講座や、パリ・エコール・ノルマルでのマスターコースなども行う。

武田美和子：全日本学生音楽コンクール高校の部・北海道第1位、東日本第2位、マリア・カナルス国際音楽コンクール第3位・審査員特別賞、ヴィオッティ国際音楽コンクール'98（ヴェルチェリ）第3位入賞の他、パルマ・ドーロ、ローマ、マザーラ・デル・パッロ、マヴィ・マルコツ、エンニオ・ポリーノ、各国際コンクールにて様々な賞を受賞。ピアノを村田紘監、水田香、植田克己、M・ヒューエンリーダー、L・ホフマン、K・アイヒホルン、A・コンタルスキー各氏に師事。ライ・イタリア国立放送響、オラデアフィル（ルーマニア）等との協演。モーツァルトの演奏において、その世界的権威であるI・ヘブラー氏やP・ラング氏に称讃される。ドイツのリサイタルでは「彼女の持つ、ピアノの音色の多彩さは、限界というものがなく広がり、ピアノの音色は限りなく繊細で、高貴な香りのフォルテシモの пассаージュは、武田の能力の高さを刻印した。」と評されるなど、内外の新聞や音楽誌上等で好評を博す。CD「武田美和子プレイズリスト」、「カントンド・アンジェリーコ」をリリース。上野学園大学、大宮光陵高等学校にて後進の指導も行う。